

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第109版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

無料メールマガジンも
配信中です

神家総本家
瓦版



こちらから登録いただけます
www.caguya.co.jp/
kawaraban/



「おいしい! おかわりしたい!」など好評で、会話もはずみ盛り上がった様でした。
※園様のブログはこちら(<http://www.yutakahoikuen.ed.jp/kodawari/2057.html>)

おもてなしの実践 ～日頃が結果になる～

福岡県太宰府市にあります
ゆたか保育園様のブログに、
保護者向けの『ランチ会』の
様子が発信されていました。
和の雰囲気、飾りつけや、心
落ち着く照明、お品書きを用
意したり盛り付けにも工夫が
見られ、写真を見ただけでも
その目的が伝わってきます。
保護者アンケートでも「普
段なかなか他の保護者と話
ができないので、ゆっくり話
せてよかった」「家庭では見
られない子どもの姿を見るこ
тоができた」など、沢山の嬉し

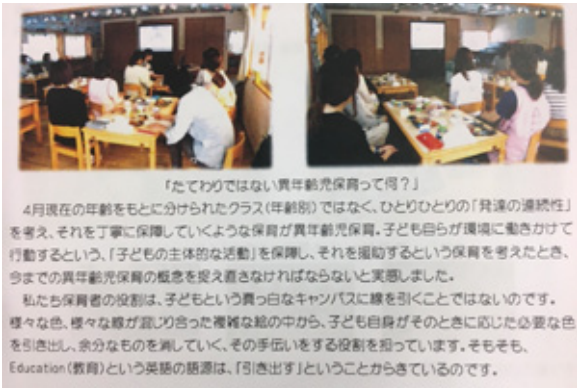
い感想を頂けたそうです。
「隙間時間にコソコソ飾り
を作ったり、プロジェクト
で映す子どもの写真を集めた
り、どうしても保護者の方
が話しやすいか…など、先
生たちがアイデアを出し合
い協力した結果だと思いま
す」とブログには綴られてい
ました。先生方が日頃行っ
ている子どもたちへの配慮
や寄り添いと、同じものを
、きつと保護者の方々も感
じられたのではないでしょ
うか。まさに裏表なしの実
践を感じました。

保育マルシェ



その日の学びが毎回冊子に。

岡山県の笠岡市にあります
富岡保育園様では、「保育
マルシェ」という機会を設
けています。それは保育所
保育指針などの3法令改定
に伴い、幼稚園・保育園の
垣根や、年齢、性別、職域
も超えた地域皆で学びあ
える場「保育コミュニティ」
の拡大とお互いに「保育の
質」を高めあう場をつくる
必要性を感じたからでした。



フェンシングでの『マルシェ』は『一歩前に進む』ということを意味しています。

市内の幼稚園や保育園な
ど、先生方が20名以上集
り「見守る保育」のDVD(藤
森先生監修)を皆で鑑賞さ
れるという取り組み。第1回
目は『たてわりではない異
年齢児保育』を用いて、指
針を読み解く中で「年齢で
とらえた画一的な保育で
はなく、発達段階や発達過
程を踏まえた保育とは」と
いうことを学ばれたそう
です。そして翌月の2回目
では『チーム保育の考え



今年度の販売は「文字・数」の内容について。1冊500円(送料別)
保育事例も満載です!お問い合わせは新宿せいが子ども園 山下先生まで

今回から会場を日本橋へ移
し開催されたギビングツリー
主催の『第47回保育環境セ
ミナー』では、主宰の藤森先
生の講演の他、会員園による
実践発表やドイツの保育園を
視察した研修報告と、見守る
保育に関するQ&Aが行われ
ました。また会場では新宿せ
いが子ども園の先生方が保
育実践をまとめた冊子も販
売しているのですが、運動会
、遠足、お楽しみ会などの
行事に関することや、毎月
、全国の先生方が集まって
行っている勉強会(臥竜塾
年間講座)での講座をまと
めた内容になってお

り、すぐにでも保育に活
かせる具体的な事例など、
先生方が積み重ねてきた実
践が豊富に収められています。
子どもにとって最善と思
える実践を自ら発信してい
くことが子どもの環境改善
に繋がります。セミナーで
日頃の実践を発表してくだ
さることも、自分たちの実
践を冊子という形で共有し
てくださることも、すべて
子どもたちのための実践
だと感じます。私たちも事
務局として、より多くの先
生に気兼ねなく実践を発信
できる場を提供できるよう
、試行錯誤を続けていき
たいと思います。

実践の発信

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

永い時を経て



永く暮らしを見守ってきた、ありがたい飴色の煤竹。
歴史を生き抜き燻されたいのちの妻みを感じます！

築120年の古民家『聴福庵』の厨房の天井に、煤竹（すすだけ）を敷き詰めようという取り組み始めたのが昨年の6月。そして先日、約1年掛かりでようやく完了を迎えることになりました。この煤竹とは、100年や200年という永い年月をかけて囲炉裏の煙で燻された竹のことで、カビの増殖を防いだり、防虫効果や病原菌からも防護できるという、日本の風土が生み出した暮らしの智慧が詰まっています。今は本物入手

個性が混ざる

先月の「初心会議」では、中国やドイツ出張から帰ってきたクルーが、モーニングに中華粥を、ランチにはソーセージやプレッツェルなどのドイツ料理を用意してくれました。現地での話が聴けるのも楽しいですが、こうして実際においしい食事を通して他国の文化に触れられるのも格別！また、月に一度皆が集まるこの会議の日に、色々な話をしながら涙が出るほど笑い合った時間を振り返ってみると、とても豊かでありがたい時間だったなあとしみじみ感じます。その楽しさは誰かだけでなく、

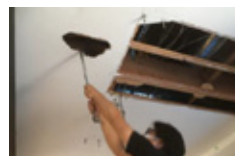


中華粥と共に、三国志で有名な中国の偉人の名言も一緒に紹介されました！

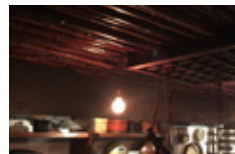


毎月の初心会議では、久しぶりに皆が集まり、近況など共有し合います！

それぞれの個性がそのままに出し合えていることが大きいことも実感します。人も国も色々ですから、それぞれの良さが混ざっていいというのは、自然体で楽しさも倍増です。日頃から、ありのままを大事に尊重する心や、混ざっていく工夫、更にはそんな素が出しやすい家族的で安心した場づくりを、改めて大事にしていきたいと感じました。



当初は石膏ボードが使われて無機質な雰囲気でしたが、地道に取り壊していきましました。



厨房の天井の煤竹が、再び私たちの食卓を見守ってくれるという安心感が感じられます。

することが難しく、今回も富山や福岡県柳川にある数百年前の古民家から譲っていただいたものを使用しました。天井に煤竹を敷き詰めて一本一本縄で縛っていくのは、後半になるほど大変で時間のかかる取り組みでしたが、時間や手間をかける価値を感じられていたのは、そのもの自体が永い時を経てきたものだったからなのかもしれません。すぐに加工して使える物が求められる時代ですが、時間をかけてそのもののいのちをじっくりと感謝して使おうとする「もったいない」という日本の心を、ここ『聴福庵』を通して子どもたちに譲り遺していきたいと思っています。

涼を届ける

今年も皆様のもとへお送りした暑中見舞い葉書。6月号の記事でも葉書のイラストを手掛けて頂いているイラストレーターさんをご紹介しましたが、今年も可愛らしく爽やかなイメージに仕上げて下さいました。

形式にとらわれずなるべく自分たちの言葉で想いを伝えることを大事に一枚一枚、皆様のお顔を思い浮かべながらメッセージを綴りました。そのため、

遊び半分、面白がる

一期一会庵

先日、広島で人間社会学研究所の和田芳治さんと奥様にお会いするご縁がありました。この方は「過疎を逆手に取る会」（逆手塾）を立ち上げ、里山暮らしの楽しさと豊かさを本来の人間として生き方やあり方を発信しておられました。特にお話の中で印象に残ったものは、「面白がる」というお話です。

今の時代は楽しさを選ぶよりも周囲を気にして合わせる人の方が増えているといえます。和田さんは取り組みむときはなんでも「遊び半分」でいいと仰います。「遊んでいるだけではダメだという人がいますが、本気で遊んでいる人は楽しんでいる。楽しんでいられる人は楽しんでいる。楽しい人もいられるけれど、それは違う。本来は楽しいことが学んでいるんです。」とも言います。そしてやらされてやるのは楽しくないからこそ、なんでも自ら「面白がる」ことが主体

乱筆でお見苦しいものもあるかもしれませんが。

今はメールや電話などですぐに連絡がとれる時代ですが、こうした昔ながらの習慣には奥深い意味があるように思います。暑さ厳しいこの時期に少しでも涼を感じてもらえたら幸いです。



今年は見守る田んぼを通して子どもたちと学び合う機会が増えたため、田植えをする早乙女姿の女性と、初めての田植えにワクワクするかぐや姫と子ども…というイメージで涼を感じられる葉書に。

性になっていくともいいます。これは私の実体験からも共感でき、「なんでも面白がっている人」は仕事も生活もすべて楽しく豊かになっていきます。その逆に面白くない人は、義務になり「なんでもしななければならない」というように柔軟性がなくなってきた執着ばかりが増えていきます。和田さんは、「自分が楽しいからこそ周りを楽しくすることができ、自分が我慢して周りを楽しくさせてもそれでは楽しさをわけてあげることができない。自分がうんと楽しんでいられるからこそ、その楽しんだ分を人に与えることができるのです。」と。つい理想を求めているうちについて結果ばかりを気にしてしまっています。本来はその理想までのプロセスこそが面白いのであり、目的地のことばかりを考えていたら楽しいものも義務感になるのは自明の理です。「面白がる」意識でいきたいと思っています。

【編集後記】

今月も竹取新聞をご覧頂きありがとうございます。全国的に警戒レベルの暑さが続いております。皆様どうぞくれぐれもご自愛ください。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます